

和歌山県田辺市で蝉しぐれの中で 15 回連続して 鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科)

Continuous 15 times droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) in Tanabe city, Wakayama Prefecture, Japan in chorus of cicadas droning

久保田 信

日本最大種で南日本に広く分布するクマゼミ *Cryptotympana facialis* (カメムシ目 = 半翅目, セミ科) が、和歌山県田辺市の蝉しぐれを聞かない地点で 16 回連続して鳴いたのを記録した (久保田, 2010)。今回も 1 年後の同じ時期に同じ公園で、ほぼ同じ回数多数回鳴きに遭遇した。しかし、今回は蝉しぐれの中での遭遇となったので報告する。

和歌山県西牟婁郡田辺市の新庄公園の遊歩道で、1 個体が 15 回途切れることなく連続して鳴いた。樹高約 7 m で最大の枝ぶり幅が約 2 m のウリハダカエデで、これを目撃した。クマゼミが鳴き始めた時刻は、2011 年 7 月 28 日の午前 7 時 37 分からで、人通りもまだなく、鳴き終わるまでの約 10 分間ずっと追跡できた。既に太陽は少し昇り、日光は斜めに樹木に射し込んでいた。このウリハダカエデの木の高さ 5 m の所の直径 10 cm ほどの枝で、この雄のクマゼミが鳴き始めた。そこで歩行を止め、クマゼミから 4 m ほど離れた場所から立ったまま静かに観察していると、「シャワシャワシャワ…」という特徴的な鳴き声を勢いよく発した後に「ジージー…」という低い音を続けて鳴き止まず、この一連の繰り返しを 15 回とぎれずに実行した。鳴き止んだ後は飛び去った。

この地点付近は多数のクマゼミが大合唱をしており、多くの競合者が近くにいても連続の鳴きとなったのが昨年の観察結果と異なっている。この地点付近で同じ様な現象に遭遇したが、その時も蝉しぐれの中、少なくともクマゼミは 10 回連続して鳴いた。これらの個体も特別に“息の長い個体”だったのかもしれないが、雌が飛んできて、これらの雄と交尾することはなかった。

なお、本個体がずっと鳴き続けた間に、このウリハダカエデのすぐ近く (約 70 cm 離れる) の枝に別のクマゼミ雄が 1 個体飛んできて 5 回連続して鳴いた後で飛び去ったが、本個体と同時に一度も鳴かなかったのが注目される。また、別の 2 個体が 10 分間にこの樹に飛んできて止まったが、それらは (性別不明) 鳴かなかった。

謝辞

樹木の同定を下さった梅本信也博士 (京都大学フィールド科学教育研究センター) に深謝いたします。

引用文献

久保田 信 .2010. 和歌山県田辺市で 16 回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科). KINOKUNI, (78): 12-13.

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海 459 京都大学フィールド科学教育研究センター-瀬戸臨海実験所)